

ロシアによるウクライナ侵攻があってから、戦争がない世界の実現可能性について考える時があり、政治・経済・歴史・宗教・社会・哲学などの学者や世間の人々の、発言や行動の新聞やネット情報に接することが多くなっていますが、かつて、宮沢賢治が言ったと聞く言葉：

〈世界ぜんたいが幸福にならないうちは、個人の幸福はありえない〉 に同感であり、

〈ぼくはきっとできると思う。なぜなら、ぼくらがそれをいま考えているのだから〉

と 〈僕たちと一緒にいこう。僕たちはどこまでだって行ける切符をもっているんだ〉

に示された、日本的な自然の理法信仰・前向き楽観姿勢・共同体意識に、改めて、世界中の次を担う若い人々が目覚めてほしいと願うものですが、戦争をなくす試みの一つの手段を自分も探そうとする中で、戦争には双方の言い分があり、片方を一方的に否定する行為が、国民運動化している情報化社会で、その動きの底にある、〈恨み〉や〈利己追求感情〉の解きほぐしが、取り上げらるべきテーマではないかと思っているものです。そのほぐしへの第一歩は、同胞感ではないかと思っています。

現存人類が、ただ一人のアフリカ女性の血を受け継いでいるという科学的情報は、人類同胞感醸成に役立つと思いますが、家族が持つ一体感や、血の繋がり関係を認識することが、先祖に対する一体感と結びついていると認識する時、みんなが自分から先祖を迎えることをしたらいいと思い、先祖の数を考えてみた結果、頭書の俳句ができました。

今年春高校へ入る前に来た孫が泊まって帰る時に、自身の10代前や西暦元年の先祖の数が何人位か考える事を、期限を切らない宿題として出していたのですが、お盆を前に、改めて計算して、一代前が父母2人、2代前が祖父母で4人と遡ると10代前が2の10乗で1,024人だから、これを1,000人として世代継承を25歳で計算すると、10代=250年、40代前=1,000年前は2の40乗で1兆人、10,000年前は、2の400乗で1京人となりました。

現在の世界人口78億人と比べての数字の逆格差は、出した先祖数が延べ数で、命の継承の過程で、同じ先祖の血が、別の流れの中で、何度も受け継がれたことを示すものだと理解しましたが、これも、新しい感覚で受け止めた驚きでした。

今年も、お盆に迎え火を焚きますが、ひょっとして、見えない1兆人、更には1京人が来てもおかしくないと思っていますところ。以上。